

自主防災組織などの消火栓使用、検討へ 総務常任委員会で八木副市長が約束

上越市はこれまで、「消火栓を使用した消火活動は、消防署や消防団以外は、重大事故が発生する危険性が高く、一般市民や自主防災組織による使用は適当でない」としてきましたが、自主防災組織等の使用についても検討することを13日、表明しました。これは私の総務常任委員会での質問に八木副市長が答えたものです。貴重な一歩前進です。

この日の質問で私は、消防署や消防団員以外の消火栓使用は適当でないとしたこれまでの見解は消防庁の見解かどうか、40ミリ口径の消防ホースや無反動の管槍（かんそう）を使っている事故は全国でどれくらいあるか、隣接の系魚川市で認めているのに上越市が認めない、行政

の判断はおかしいのではないかと、などと追及しました。担当課長などは、①これまでの見解は消防庁の見解ではなく、上越市の判断である、②実態はつかんでいないなどと答えました。そのことを確認した私は、「（これまでの見解は撤回するといってもらいたいが）せめて検討すると答えてほしい」と訴えました。

これに対して八木副市長は、「私たちがとして忸怩たる思いの中で、これでいいのかという議論は正直ある。これまでの議論を十分受け止めた中で課題とさせていただく。新年度、災害に強いまちづくりに力を入れていくとしているので検討する」と答えました。

消火栓使用の問題はここ数年、市内のいくつもの地域で、「団員が不足している中で初期消火を確実にやるために自主防災組織等の使用を認めてほしい」という声が強くなっていましたが、市はかたくなに認めようとはしませんでした。しかし、この日の論戦で流れは変わりました。今後の検討の動きを注視して、早期に、確実に実行されるように頑張りたいと思います。

第三セクターの現状と今後の対策についても若干質問しました。市が決めた関与方針で、常勤役員の不在、企画力や営業力の不足などで企業としての存続が危ぶまれているとの記述があったことや私が見聞きしている実態などを紹介しながら質問しました。答弁の中で市はその後統合などについて言及しましたが、基本的な問題は残っていると感じました。第三セクターのみなさんの要望をしっかりきいて対応してほしいものです。



諏訪区で移住促進フォーラム

16日、諏訪地区公民館で開催された「移住促進フォーラム」に参加してきました。主催は移住促進諏訪の会です。諏訪区内外から約30人が参加しました。

フォーラムでは、長野県信濃町のNPO法人「ざいごう」の理事長さん、事務局長さんなど3人が来られ、報告してくださいました。新しい人を迎えるときの大事にしてほしいこと、地元の知らない地元の魅力の再発見の大切さ、移住はスタートであり、その後の総合的な支援の大切さなどを教えてくださいました。とても勉強になる会でした。



予約注文

とちやの風

橋爪法一

晩年の母親と一緒に暮らすなかで見つけた「小さな幸せ」。満載のエッセイ集。コウノトリとともに幸せをあなたのとこに運びます。

知活舎

私の13冊目のエッセイ集、『とちやの風』は今回もアマゾンを使ったオンデマンド出版です。アマゾンでは、19日から予約注文が始まりました。1冊1590円です。市内は私が配達します。



【オオイヌノフグリ】
（再掲）オオバコ科の越年草。漢字で、「大犬の陰囊」と書きます。先日、大湫区で行方不明のコウノトリを探していて見つけました。小さな花ですが、かわいい紫色の花です。花期は2月から4月。今年はずっと遅い時期に出会いました。花言葉は、「忠実」「信頼」「清らか」など。

はしづめ法一の活動レポート

No.2196 2025.3.23
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八四三回 かぜのでんわ

できれば、もうこの世にいない人ともう一度だけでいいから話をしてみたい。そういう願いを実現する電話があったら、すぐにでも飛んで行きたい……。

誰にもそういう人が一人や二人はいるのではないのでしょうか。私の場合、一昨年の秋に突然、亡き父や母のところへ行ってしまった弟が一番です。そしてその一年前に他界した母とも話したい。

先日、高田小町で行われたライブでそういった願いを見事に表現した人がいます。朗読や歌で頑張っているグループ、「ことばと音つむぎ」の竹田美穂子さんです。この日、美穂子さんが朗読したのは、いもとようこ作『かぜのでんわ』でした。

この絵本は岩手県大槌町のガーデンゼイナー・佐々木格さんが自宅の庭に設置した「風の電話ボックス」をもとにしたものです。美穂子さんにも、もう一度会って話をしたい人がおられたのでしようね、時々涙ぐみ、右手に持ったハンカチを何度も頬にあてていました。

美穂子さんの朗読で登場したタヌキやキツネなどの電話の言葉を聞きながら、私は弟や母のことを思い浮かべていました。

亡くなる二日前、わが家に泊まった弟は、数十年前に私が高校時代に使っていた電気スタンドを持ち込み、たっぴり昔話をしてくれました。でも、そのスタンドをどこで見つけたのか、私はまだ教えてもらっていませんでした。

弟が持ち込んだスタンドは、細長い蛍光灯のカバーが錆びだらけになっていました。長年、使われることなく、何処かに置いてあったものだという事はわかります。でも、わが家が尾神にあったときの牛舎の二階にあったものなのか、それとも十数年前に代石の牛舎を解体した時に見つけたものなのかわかりません。どちらであれ、弟が保管していてくれなければ目にする事が

できませんでした。

もし電話でもう一度だけ弟と話ができるとしたら、こちらからは、「おまん、どこか悪いところあったか」「電気スタンド、どこで見つけたか」と訊いてみたいと思います。

もちろん、こちらからも伝えたいことがあります。弟がやり残した仕事のことです。「おまんが残した仕事は、後生寺（出身）の田中豊さんがちゃんと手配してくれて、お客さんに迷惑かけないようにしてくんなったよ」「市役所の補助金の手続きはミーちゃんやハルちゃんがやってくれたよ。何も心配しなくていいよ」と言いたい。

母と最後に言葉を交わしたのは二〇二三年の七月、母が入院した日の夜でした。当時は新型コロナウイルス感染症が流行していた時期なので、スタッフの方が特別の配慮を下さり、ほんの一分ほど母の病室に入らせてもらいました。その時、母は何が起きたのか分からなかったのでしょうか、「とちゃ、おれ、死んだか」と訊いてきました。「なして、死んだらば、話なんかできないよ」と言葉を交わしました。その後、母は私と言葉を交わすことなく三か月後、父のところへ行ってしまいました。

もし母と電話ができるなら、母に訊いてみたいことがいくつもあります。その一つは、わが家の庭にある万年青（おもと）についてです。というのも、ごく最近になって、庭の万年青が二か所あることがわかったのです。どこから持ってきたか、知っているのは母しかいません。

伝えたいこともたくさんあります。ひとつは母にとってひ孫であるリョウ君が元氣であること。もう一つは、板山の杉（屋号）のキエさんのことです。「元氣だすけ、まだ迎えにきんななや」と伝えたい。

ああ、私にも「かぜのでんわ」がほしい。弟や母ともっと話がしたい。

遊ランドで新酒を楽しむ会

吉川区の遊ランドで8日に開催された「新酒と料理を楽しむ会」、何と160人近くが集まりました。

オープニングは小川菜々さんによる二胡の素敵な演奏でした。乾杯の後は、柏崎市の歌手、夕渚愛さんが熱唱しました。地域コミュニティバンド、「ピアス」のポーカル・macoさんは近々、CDデビューしますが、macoさんはそのCDに入る『出会えて良かった』と『銀竜草』を歌いました。着ていた衣装は銀竜草をイメージしたものだった



うことでしたが、一段と美しく見えました。

会では久しぶりにお酒を飲み、たくさんの人と交流しました。イラストはその時の一コマです。

ここ1週間ほど雪が降ったり雨が降ったり最悪の天気でしたが、コウノトリは元氣です。頃調にいけば、4月5日前後にヒナが誕生します。

巣の周辺に飛んできて、ちょっかいを出していたよそのコウノトリの姿も見えなくなりました。よそで巣を作ったのかも知れません。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月5日(水)	3月19日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高土分遣所	0.053	0.050

春よ来い

第八四三回 かぜのでんわ

できれば、もうこの世にいない人ともう一度だけでいいから話をしてみたい。そういう願いを実現する電話があったら、すぐにでも飛んで行きたい……。

誰にもそういう人が一人や二人はいるのではないのでしょうか。私の場合、一昨年の秋に突然、亡き父や母のところへ行ってしまった弟が一番です。そしてその一年前に他界した母とも話したい。

先日、高田小町で行われたライブでそういった願いを見事に表現した人がいます。朗読や歌で頑張っているグループ、「ことばと音つむぎ」の竹田美穂子さんです。この日、美穂子さんが朗読したのは、いもとようこ作『かぜのでんわ』でした。

この絵本は岩手県大槌町のガーデンゼイナリー・佐々木格さんが自宅の庭に設置した「風の電話ボックス」をもとにしたものです。美穂子さんにも、もう一度会って話をしたい人がおられたのでしようね、時々涙ぐみ、右手に持ったハンカチを何度も頬にあてていました。

美穂子さんの朗読で登場したタヌキやキツネなどの電話の言葉を聞きながら、私は弟や母のことを思い浮かべていました。

亡くなる二日前、わが家に泊まった弟は、数十年前に私が高校時代に使っていた電気スタンドを持ち込み、たっぴり昔話をしてくれました。でも、そのスタンドをどこで見つけたのか、私はまだ教えてもらっていませんでした。

弟が持ち込んだスタンドは、細長い蛍光灯のカバーが錆びだらけになっています。長年、使われることなく、何処かに置いてあったものだということはわかります。でも、わが家が尾神にあったときの牛舎の二階にあったものなのか、それとも十数年前に代石の牛舎を解体した時に見つけたものなのかわかりません。どちらであれ、弟が保管していてくれなければ目にするこ

できませんでした。

もし電話でもう一度だけ弟と話ができるとしたら、こちらからは、「おまん、どこか悪いところあったか」「電気スタンド、どこで見つけたか」と訊いてみたいと思います。

もちろん、こちらからも伝えたいことがあります。弟がやり残した仕事のことです。「おまんが残した仕事は、後生寺（出身）の田中豊さんがちゃんと手配してくれて、お客さんに迷惑かけないようにしてくんなったよ」「市役所の補助金の手続きはミーちゃんやハルちゃんがやってくれたよ。何も心配しなくていいよ」と言いたい。

母と最後に言葉を交わしたのは二〇二三年の七月、母が入院した日の夜でした。当時は新型コロナウイルス感染症が流行していた時期なので、スタッフの方が特別の配慮を下さり、ほんの一分ほど母の病室に入らせてもらいました。その時、母は何が起きたのか分からなかったのでしょうか、「とちゃ、おれ、死んだが」と訊いてきました。「なして、死んだらば、話なんかできないよ」と言葉を交わしました。その後、母は私と言葉を交わすことなく三か月後、父のところへ行ってしまいました。

もし母と電話ができるなら、母に訊いてみたいことがいくつもあります。その一つは、わが家の庭にある万年青（おもと）についてです。というのも、ごく最近になって、庭の万年青が二か所あることがわかったのです。どこから持ってきたか、知っているのは母しかいません。

伝えたいこともたくさんあります。ひとつは母のひ孫であるリョウ君が元気であること。もう一つは、板山の杉（屋号）のキ工さんのことです。「元氣だすけ、まだ迎えにきなんなや」。

ああ、私にも「かぜのでんわ」がほしい。弟や母ともっと話がしたい。

板山の県道、再び全面交通止め

県道上越塚柏崎線の大島区板山地内で地滑りが発生し、夜間交通止めとなっていました。19日より、全面通行止めとなりました。期間は災害復旧工事が終わるまで。地元町内会長への説明では、昨年と同じく12月頃までの予定とのこと。

この結果、迂回路は昨年同様、田麦から旧大山温泉入口までの市道となります。関係者からは、「この道は危ないところもある。しっかり補修してほしい」「大型車が通れば痛みが一気に進む。ちゃんとした対策を」などの要望が出ています。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月5日(水)	3月19日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.050



19日夕方撮影。

春よ来い

第八四三回 かぜのでんわ

できれば、もうこの世にいない人ともう一度だけでいいから話をしてみたい。そういう願いを実現する電話があったら、すぐにでも飛んで行きたい……。

誰にもそういう人が一人や二人はいるのではないのでしょうか。私の場合、一昨年の秋に突然、亡き父や母のところへ行ってしまった弟が一番です。そしてその一年前に他界した母とも話したい。

先日、高田小町で行われたライブでそういった願いを見事に表現した人がいます。朗読や歌で頑張っているグループ、「ことばと音つむぎ」の竹田美穂子さんです。この日、美穂子さんが朗読したのは、いもよう「かぜのでんわ」でした。

この絵本は岩手県大槌町のガーデンゼイナー・佐々木格さんが自宅の庭に設置した「風の電話ボックス」をもとにしたものです。美穂子さんにも、もう一度会って話をしたい人がおられたのでしようね、時々涙ぐみ、右手に持ったハンカチを何度も頬にあてていました。

美穂子さんの朗読で登場したタヌキやキツネなどの電話の言葉を聞きながら、私は弟や母のことを思い浮かべていました。

亡くなる二日前、わが家に泊まった弟は、数十年前に私が高校時代に使っていた電気スタンドを持ち込み、たっぴり昔話をしてくれました。でも、そのスタンドをどこで見つけたのか、私はまだ教えてもらっていませんでした。

弟が持ち込んだスタンドは、細長い蛍光灯のカバーが錆びだらけになっています。長年、使われることなく、何処かに置いてあったものだという事はわかります。でも、わが家が尾神にあったときの牛舎の二階にあったものなのか、それとも十数年前に代石の牛舎を解体した時に見つけたものなのかわかりません。どちらであれ、弟が保管していてくれなければ目にする事が

できませんでした。

もし電話でもう一度だけ弟と話ができるとしたら、こちらからは、「おまん、どこか悪いところあったか」「電気スタンド、どこで見つけたか」と訊いてみたいと思います。

もちろん、こちらからも伝えたいことがあります。弟がやり残した仕事のことです。「おまんが残した仕事は、後生寺（出身）の田中豊さんがちゃんと手配してくれて、お客さんに迷惑かけないようにしてくんなったよ」「市役所の補助金の手続きはミーちゃんやハルちゃんがやってくれたよ。何も心配しなくていいよ」と言いたい。

母と最後に言葉を交わしたのは二〇二三年の七月、母が入院した日の夜でした。当時は新型コロナウイルス感染症が流行していた時期なので、スタッフの方が特別の配慮を下さり、ほんの一分ほど母の病室に入らせてもらいました。その時、母は何が起きたのか分からなかったのでしょうか、「とちゃ、おれ、死んだが」と訊いてきました。「なして、死んだが」と訊いてきけないういよ」と言葉を交わしました。その後、母は私と言葉を交わすことなく三か月後、父のところへ行ってしまいました。

もし母と電話ができるなら、母に訊いてみたいことがいくつもあります。その一つは、わが家の庭にある万年青（おもと）についてです。というのも、ごく最近になって、庭の万年青が二か所あることがわかったのです。どこから持ってきたか、知っているのは母しかいません。

伝えたいこともたくさんあります。ひとつは母にとってひ孫であるリョウ君が元氣であること。もう一つは、板山の杉（屋号）のキエさんのことです。「元氣だすけ、まだ迎えにきなんなや」と伝えたい。

ああ、私にも「かぜのでんわ」がほしい。弟や母ともっと話がしたい。

ピアスがチャリティライブ。新曲『ランラン凍みわたり』も演奏

柿崎コミュニティプラザで20日に開催されたピアスの「能登半島地震義援金ライブ」、ポールのmacoさんのオリジナルCD『Arigato』発売の前日とあって、ファンが150人近く集まりました。macoさんは歌もしゃべりも快調で、サクスの伸さんなどメンバーの魅力を上手く引き出していました。イチコロさんや和彦さんの歌も素敵でした。私とmacoさんで共同作詞した『コウノトリさん、ありがとね』、『ランラン凍みわたり』も歌っていただきました。『ランラン凍みわたり』は生演奏



を初めて聴きましたが、軽快な歌に仕上がっていました。子どもたちも歌ってくれるかも知れません。

先日、遊ランドでお会いした二胡奏者の小川菜々さんも友情出演。二胡の音に酔いました。

ここ1週間ほど雪が降ったり雨が降ったり最悪の天気でしたが、コウノトリは元気です。順調にいけば、4月5日前後にヒナが誕生します。

巣の周辺に飛んできて、ちょっかいを出していたよそのコウノトリの姿も見えなくなりました。よそで巣を作ったのかも知れません。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月5日(水)	3月19日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.053	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高土分遣所	0.053	0.050